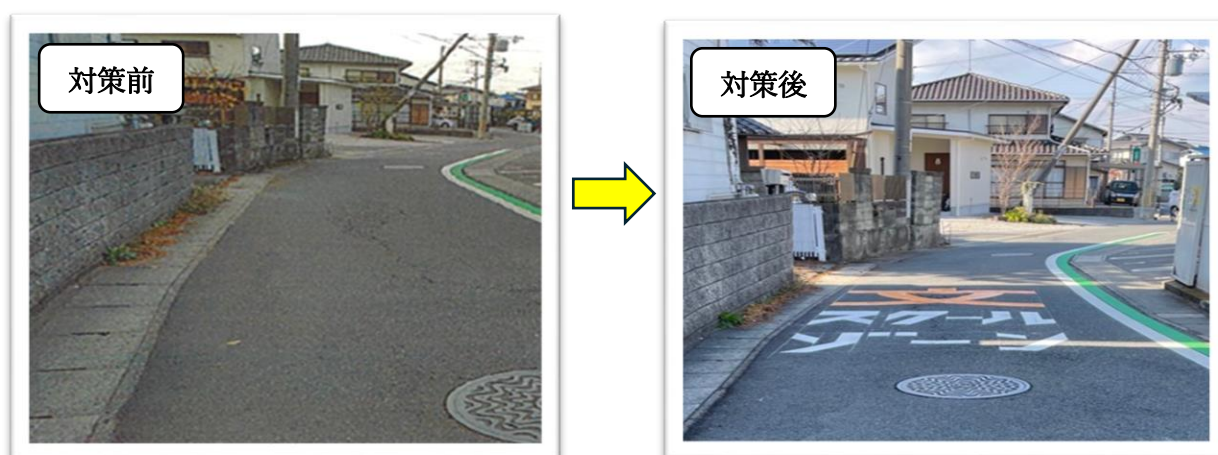


通学路安全対策取組事例

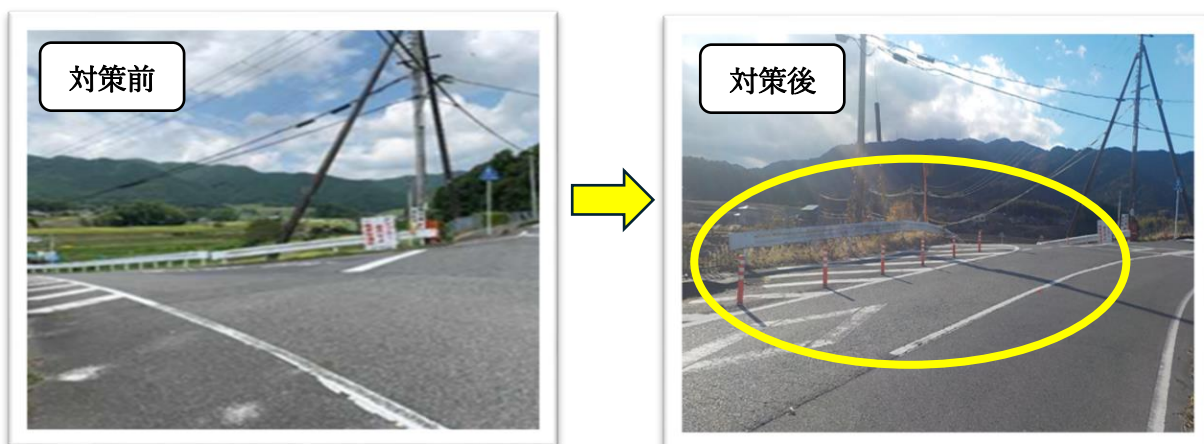
平成24年度から市内全小学校区において、毎年度、通学路合同点検を実施しております。学校、教育委員会、警察、道理管理者、おうみ通学路交通アドバイザー、地域関係者等と合同で点検を行い、通学路における危険個所に対し、様々な取り組みを実施してまいりました。これからも、児童が安心して登下校できるよう、関係機関と連携し、通学路の安全対策に努めてまいります。

取組事例1 スクールゾーン路面標示



路面にスクールゾーンの文字を標示することで、近くに学校があり、多くの子どもたちが利用する通学路であることをドライバーに知らせ、注意喚起を促します。

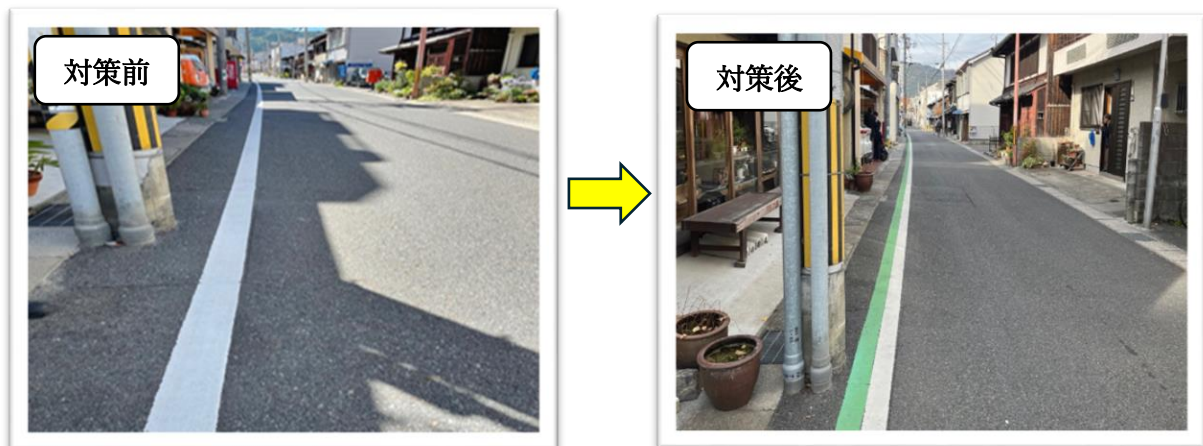
取組事例2 車線分離標設置



車線分離標を設置することで、歩道と車道のスペースを区別し、車両の進入を防いだり、歩行者が広がって歩くことを防ぎます。

取組事例 3

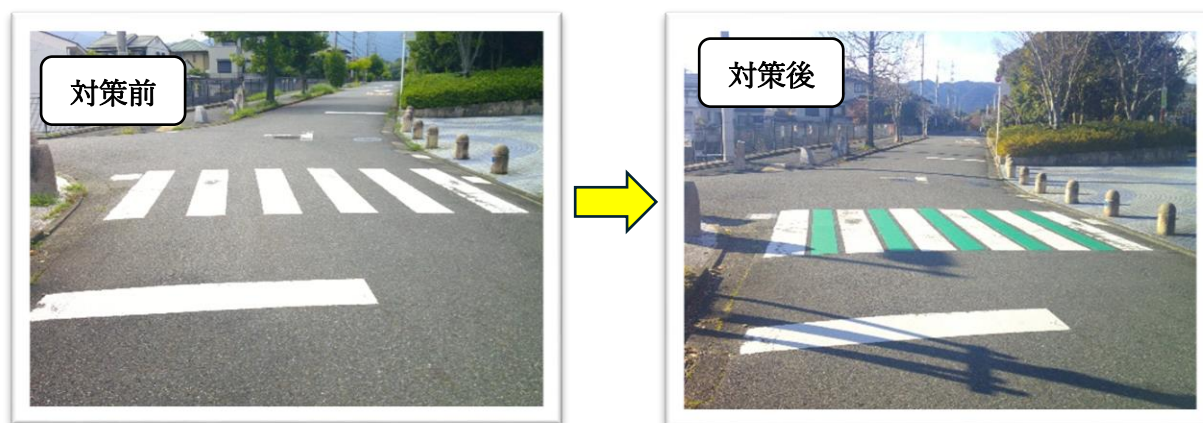
グリーンベルト設置



グリーンベルトを設置することで、ドライバーに通学路であることを視覚的に認識させ、車両の速度を抑制させるとともに、通行帯を明確にすることで、歩行者との接触事故を防ぎます。

取組事例 4

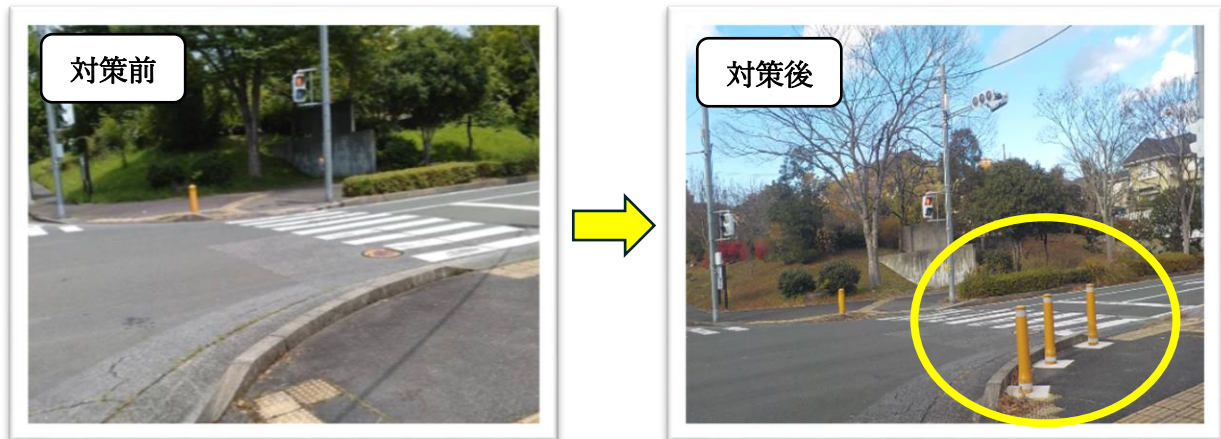
横断歩道グリーン強調



横断歩道をカラー舗装し横断歩道を強調することで、ドライバーに対して歩行者への注意喚起を行い、早い段階での一旦停止を促進します。

取組事例 5

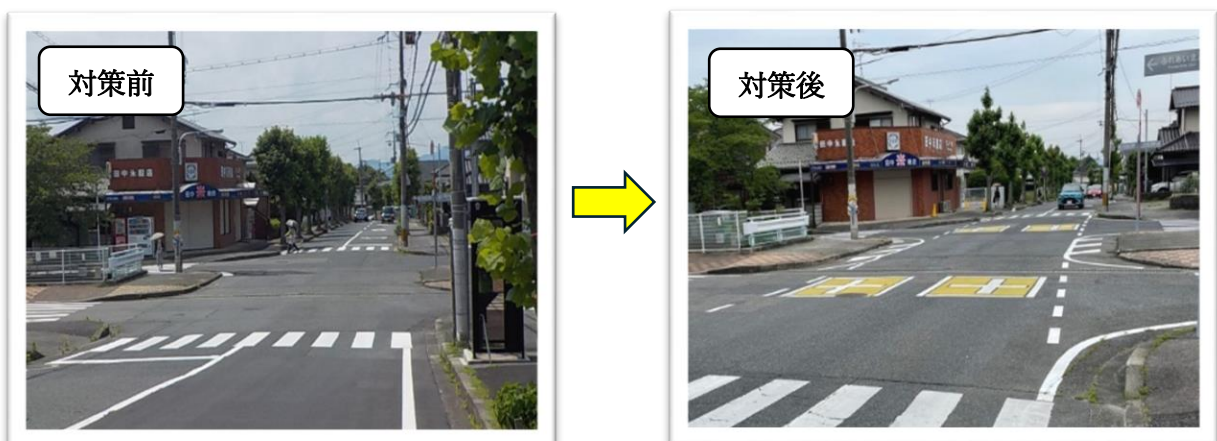
ボラード設置



ボラードを設置することで、車両の進入を制限し、歩行者を車両から守ります。歩行者の多いエリアでは、ボラードが歩行者を車両から守る重要な役割を果たします。

取組事例 6

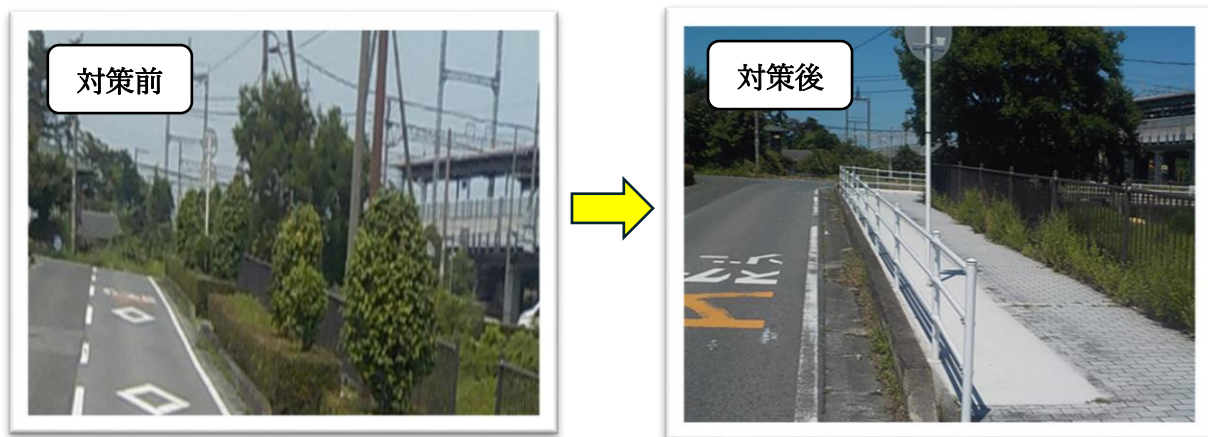
交差点マークの設置とカラー化



車や自転車との出会い頭の事故や、子どもの飛び出し事故が発生しやすい交差点に交差点マークを設置することで、注意喚起を促します。また、交差点マークのカラー化をすることで、色彩の変化により、交差点をより目立たせる事ができます。

取組事例 7

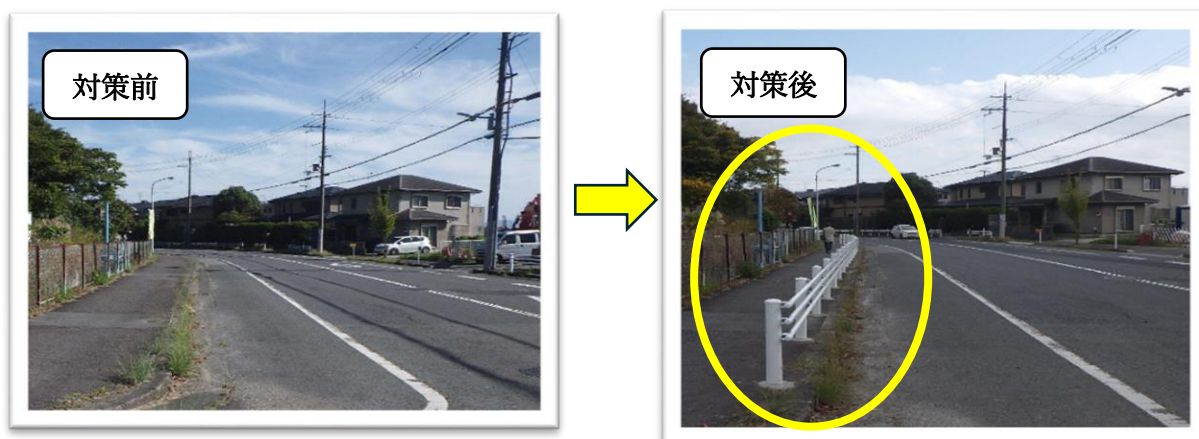
横断・転落防止柵設置及び歩道整備



横断防止柵を設置することで、歩行者が道路へ飛び出すことや、転落防止柵を設置することで、水路へ転落することなどを防ぎます。また、車やバイクが衝突した場合でも突破させない役割もあります。

取組事例 8

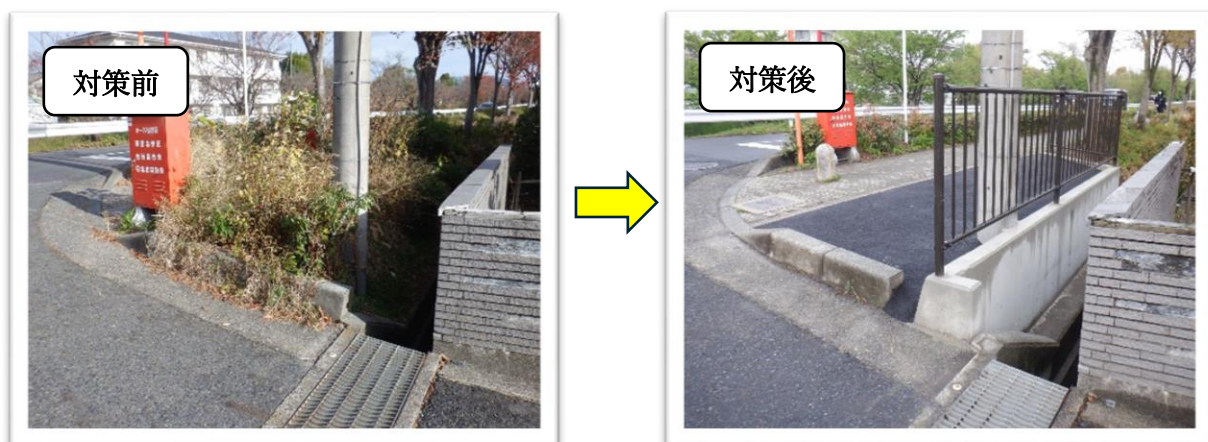
ガードレール（ガードパイプ）設置



車が衝突した際に、車を跳ね返すものがガードレールです。また、ガードパイプは主に、車の制限速度が緩やかな道路で、歩道と車道を区別したり、横断を防止したりする目的で設置されています。

取組事例 9

たまり場整備



たまり場の整備をすることで、赤信号待ちのスペースが確保され自転車・歩行者等の安全性が向上します。また、自転車・歩行者等のすれ違いが可能になります。

取組事例 10

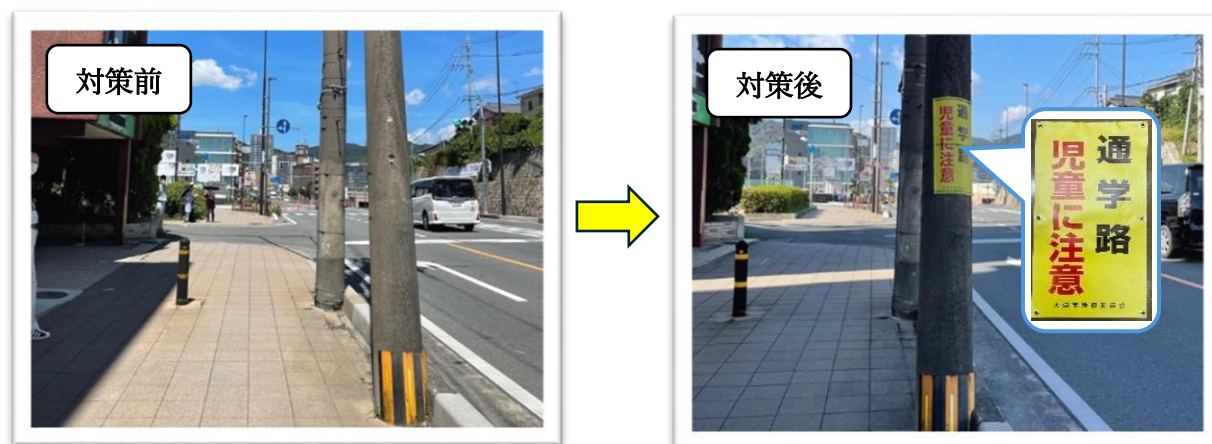
飛び出し坊や設置



飛び出し坊やを設置することで、ドライバーに対して歩行者への注意喚起を行い、早い段階での一旦停止や速度抑制を促します。

取組事例 1 1

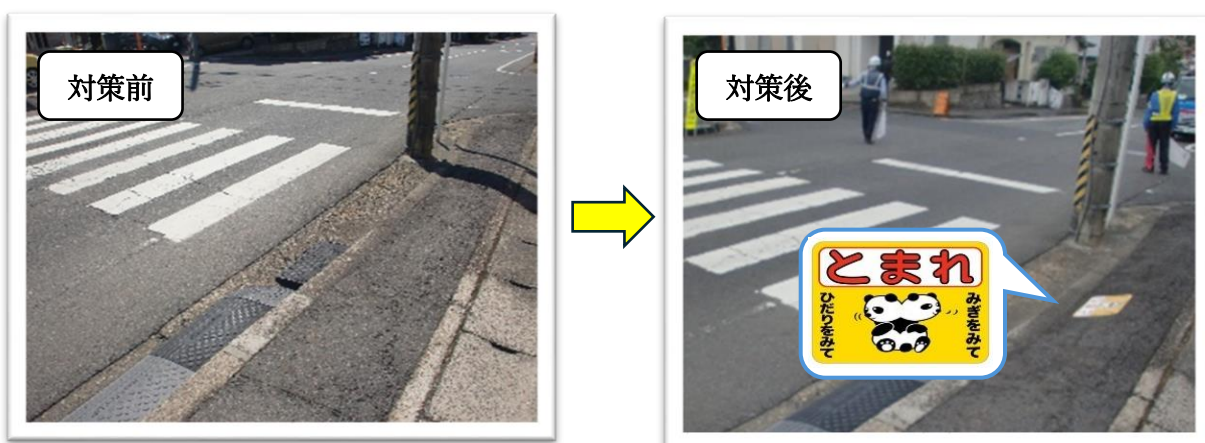
電柱幕設置



電柱幕を設置することにより、ドライバーに対して小学校が近いことを認識させ、注意喚起を促します。

取組事例 1 2

ストップマーク設置



ストップマークは、歩行者が道路を横断する際等、注意を要する箇所に貼ります。このマークを見た歩行者、特に子どもたちに、ここが交通安全に気を付ける箇所であることを知らせ、一旦止まること、左右を確認することを促します。